

国語の授業で選書指導 ～本のタイトルからどんな内容か予想しよう～

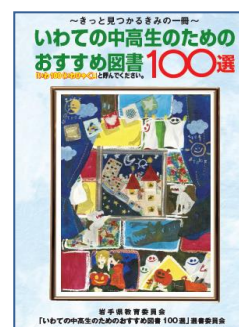
花巻市立八重畑小学校

目的 趣旨

- 国語科の「目的に応じた読書」をねらいとした授業で、児童に「選書」の重要性を理解させる。
- 「いわ100」を活用した選書指導を通じて、児童の読書生活を豊かにすることにつなげる。

対象

6年生 12人



学校・児童・生徒の様子

全校生徒88名の八重畑小学校には、地域の読書ボランティア読み聞かせグループ「アインブーフ」が読書推進に協力しています。

平成24年度には、これまでの活動が認められ、子供の読書活動優秀実践図書館・団体(個人)として文部科学大臣表彰を受けました。

学校図書館には、「アインブーフ文庫」が特設されており、その功績を紹介するとともに子どもたちの読書活動支援の継続化が図られています。毎年、グループの皆さんへの感謝の会も開かれ、温かい人間関係の中で、読書活動が展開されています。

「いわ100」は、当時の校長先生が編集委員であったこともあり、学校にも馴染み深いものになっています。



【「アインブーフ」の読み聞かせ】

取組概要

国語科指導の「読むこと」領域においては、並行読書などで授業中の読書量を増やす活動が示されていますが、子どもたちに「選書」意識をもたせる実践については、まだまだ少ない状況にあります。

そこで、「いわ100」を活用することで、「効果的な選書指導の授業」を具体化できないかと考えました。中学生になっても読書に親しんでほしいために、あえて「いわ100」を活用しました。

＜授業の構想＞

1. 自分たちの読書生活を振り返る。

(課題)本のタイトルから内容を想像する方法を知って、本を選ぶ力を高めよう。

2. タイトルから本の内容を想像するための手立てを確認する。
3. 教科書で紹介されている本のタイトルから、内容を想像する。
4. 「いわ100」の中にある本のタイトルから、内容を想像する。
5. 「いわ100」の中から、気になる本を見つける。
6. 本の選び方についてまとめ、学習を振り返る。

(まとめ)本のタイトルは、そこからいろいろな想像ができ、本を選ぶときの参考になる。



【「いわ100」を使う児童】



【授業後の板書】

● 学校から（取組の成果と今後について）

「いわ100」を活用することで、タイトルから内容を想像しながら本を選ぶ方法について理解することができました。また、授業の中で「いわ100」を活用したことにより、「いわ100」掲載の本の概略に触れ、児童の読書意欲を喚起することができたとともに、これまでの読書指導を見直すきっかけとなりました。